

採点基準（第12回環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門）

採点基準：基本的に各項目の配点を超えない範囲で採点をお願い致します。それぞれの項目は3段階評価として、「ア」～「ウ」に具体的な基準を例として示してありますが、こちらはあくまでも例示ですので、採点の際の参考として下さい。

1) 事業活動の概要 (各2点)

- ① 事業者名
 - 「ア」 事業者名のみならず事業活動の範囲がわかる、等
 - 「イ」 事業者名のみ、等
 - 「ウ」 記載なし
- ② 所在地
 - 「ア」 本社所在地だけでなく、対象事業所所在地も記載、等
 - 「イ」 本社と事業所が別なのに1ヶ所のみ、等
 - 「ウ」 記載なし
- ③ 環境担当者と連絡先
 - 「ア」 担当者もしくは部署と、電話・ファックス・ウェブサイト等記載、等
 - 「イ」 部署名のみ、等
 - 「ウ」 記載なし
- ④ 事業内容の紹介
 - 「ア」 会社概要が書かれているもの、等
 - 「イ」 業種が分かる程度、等
 - 「ウ」 記載なし
- ⑤ 事業規模
 - 「ア」 製品別に、過去のトレンドと今後の見とおし等もわかるもの、等
 - 「イ」 単年度売上・生産高が分かる程度、等
 - 「ウ」 記載なし

2) 環境マネジメントシステム (各5点)

- ① 環境方針
 - 「ア」 法の遵守以上の自主基準を定めた環境方針がある、等
 - 「イ」 スローガンの方針を掲げている、等
 - 「ウ」 ない、等
- ② 環境目標とその実績
 - 「ア」 目標と実績が明確に対比できるよう記述されている、等
 - 「イ」 記述はあるが、目標と実績の解析がおこなわれていない、等
 - 「ウ」 スローガンの目標がかかげられているに止まっている、等
- ③ 組織・体制
 - 「ア」 ISOもしくはそれに準じたEMSを構築している、等
 - 「イ」 EMSまでにはいたっていないが、担当役員、部署等がきめられている、等
 - 「ウ」 なし、もしくはこれからの課題との記述、等
- ④ 監査・点検
 - 「ア」 内部もしくは外部者による監査・点検がおこなわれ結果が記述されている、等
 - 「イ」 監査・点検が行われているとの記述、等
 - 「ウ」 記述なし、等

3) 環境負荷の低減

3-1 全般

(各5点)

- ① 評価項目の選択
 - 「ア」 事業内容に合致した項目が適切に選択されている、等
 - 「イ」 事業内容からみて重要な項目の一部がとりあげられていない、等
 - 「ウ」 事業内容に合致した項目が選択されていない、等
- ② 目標と取組み
 - 「ア」 取組みには具体的なプログラム、達成期限、経営資源の配布等が明記されている、等
 - 「イ」 取組みと目標達成方法の整合性が必ずしも明確ではない、等
 - 「ウ」 定性的表現に止まっている。

3-2 環境負荷項目

(各10点)

以下の項目については次の基準

- 「ア」 過去の取組みおよび実績と目標が数値でしめされている、等
 - 「イ」 実績が不明確で目標のみが数値化されている、等
 - 「ウ」 定性的表現に止まっている、等
- ① 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策
 - ② 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策（非製造業では一般廃棄物）
 - ③ 事業特性に応じた取組み
 - ・ 総エネルギー投入量及びその低減対策
 - ・ 総物質投入量及びその低減対策
 - ・ 水資源投入量及びその低減対策
 - ・ 化学物質排出量・移動量及びその低減対策
 - ・ 総製品生産量又は販売量
 - ・ 総排水量及びその低減対策
 - ・ 輸送にかかわる環境負荷の状況及びその低減対策
 - ・ その他

4) その他の環境取組

- ① 製品設計での環境配慮..... (3点)
 - 「ア」 全製品・サービスに対して環境配慮開発設計について、実績・方針等を具体的に示している、等
 - 「イ」 今後の方向性のみを定性的に記述、等
 - 「ウ」 記載なし
- ② リサイクル、回収、資源再利用の取り組み等..... (3点)
 - 「ア」 全製品・サービスに対して実績・方針等を具体的に示している、等
 - 「イ」 今後の方向性のみを定性的に記述、等
 - 「ウ」 記載なし
- ③ グリーン調達..... (2点)
 - 「ア」 グリーン調達など、さまざまな取組みにチャレンジ、等
 - 「イ」 方向性のみ示されている、等
 - 「ウ」 記述なし
- ④ その他の取組み..... (2点)
 - 「ア」 その他、さまざまな取組みにチャレンジ、等
 - 「イ」 方向性のみ示されている、等
 - 「ウ」 記述なし

5) コミュニケーションの工夫 (各5点)

- ① コミュニケーション・ツールとしての工夫
 - 「ア」 双方向性のため、連絡先、担当等が明記され、ツールとしての工夫がなされている、等
 - 「イ」 工夫の余地が多い、等
 - 「ウ」 コミュニケーション・ツールとしては捉えられていない、等
- ② 地域社会との協調
 - 「ア」 労働安全衛生、社会貢献や、地域との対話などパートナーシップ形成に努力していることの記載、等
 - 「イ」 今後の取組方針のみ述べられている、等
 - 「ウ」 記述なし、等

6) 総合評価 (10点)